



狂気の大学を告発せよ!

□全市大の学生・院生・教職員諸君。

大学当局は一月半にも及び機動隊常駐体制の元にギマン的・犯罪的な内容でもって終始一貫した收拾策動を続けて来た。その事に対する一瞬の反省もなしに強圧的に授業を再開を押し付け、さらに我々の諸活動に対して、弾圧体制をしいて来た。二月四日の物理Ⅲ回生のクラス・ストを機動隊でもって弾圧し、彼らの言う授業を強行した。彼ら柿木・三宅によって代表される反動層の犯罪性は、物Ⅲ問題の授業妨害を報告書に、当日唯ストに参加しただけで何も語らなかつた活動家の名前も付け加えて、協議会で「排除対象」としており、さらに私服の前で活動家の名前を一人一人確認したことで明白となっている。官憲と表裏一体となっている当局の姿は今後も暴露される。

□9・29 学長・協議会追及集会に結集した組織を軸として、10月に統一団交団を結成し10月以來学長・協議会に団交を要求して来た。即ち我々は10・30 団交要求決起集会に1000名もの学友で決起し、その後工学部・家政学部を中心にした統一スト、そして文科系からの我々と連携した学友の起ち上り等でもって、その重く腰を上げたが、今なお協議会において多数派を形成もている三宅学長・柿木理學部長を中心とした右派ブロックによって、村ろんな難問を突き付けられ「団交要求側に有志参加があるから、協議会側も有志参加である」とか「文系学生の参加は当該教授会の反対があるから、除外する」へらには「今頃になって理学部助学会が参加するのは必要ない。大体、学長と一部評議員が私的に会見する」というので理教授会は特に反対はしなかつたのであって、その様な会見に助学会が参加するのであれば話は違つし等と反対の動きを示している。

□我々は当局のこの様な機動隊弾圧体制を弾劾すべく、あるいは又、当局の言っている「話し合い」路線が、資本主義体制下では、ギマン的にならざるを得ずその本質は弾圧でしかないことを追及すべく、又、かような専断におちいらしめた当局を追及することにさし今後の市大がいかなるものに質的転換をせねばならないかを追及する。

□「正常化」の波にのまれた学友諸君。我々と共に起ち上れ。未だ自覚ぬ学友諸君。君の寢床のその暖かさは。君のからだのそれじゃない。その暖かさは。まじく血の臭をただよわせ。君の体にしみついて。そしてあしたは。君の足への街にフタフタ歩み出る。歩み出て、君はひとの血をまじよげる。

11.26(定) 学長・協議会団交(統一団交)に結集せよ!